

参考資料

(本書は米国時間 2013 年 4 月 24 日に米国で発表済みの英文プレスリリースの和訳です。
解釈に相違が生じた際には、英語版を基準とします)

2013 年 4 月 25 日

Aflac Incorporated は 2013 年度第 1 四半期の業績を発表 2013 年度第 2 四半期現金配当を宣言 2013 年度の 1 株当たり事業利益目標を確認

Aflac Incorporated(以下、「当社」) は本日、2013 年度第 1 四半期の業績を以下のとおり発表しました。

当四半期の収益合計は、円安ドル高を反映して、前年同期の 62 億ドルからほぼ変わりませんでした。当期純利益は、前年同期の 7 億 8,500 万ドル(希薄化後1株当たり 1.68 ドル)から 8 億 9,200 万ドル(同 1.90 ドル)の増益となりました。

前年同期の当期純利益には 2,900 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.06 ドル)の税引後資産運用実現損(実現益とのネット)が含まれていたのに対し、当四半期の当期純利益には、1 億 200 万ドル(同 0.21 ドル)の税引後資産運用実現益(実現損とのネット)が含まれていました。当四半期の減損による税引後資産運用実現損は 3,500 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.08 ドル)でした。当四半期の有価証券取引による税引後資産運用実現益は 7,700 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.16 ドル)でした。当四半期の日本社の特定のドル建て投資に関連するヘッジ費用は、税引後で 300 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.01 ドル)でした。当四半期のその他のデリバティブ及びヘッジ活動による税引後資産運用実現益(ネット)は 6,300 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.14 ドル)でした。

当社は、当社事業に収益をもたらす諸要素について理解するために、事業利益(米国会計基準 GAAP 外の指標)の分析が極めて重要であると考えています。事業利益とは、有価証券取引、減損、デリバティブ及びヘッジ活動から生じた資産運用実現損益ならびにその他の非経常的損益を除外した、当社事業から得られる利益です。当社のデリバティブ活動には、主として通貨スワップ、金利スワップ、連結変動持分事業体におけるクレジット・デフォルト・スワップ、当社が発行する優先社債及び劣後社債に関連する通貨スワップ、及び当社が投資する米ドル建て有価証券に係る為替変動リスクのヘッジに用いられる為替先物取引が含まれます。有価証券取引、減損、デリバティブ及びヘッジ活動から生じる資産運用実現損益ならびに非経常的損益は、全般的な経済情勢など外部環境が大きく影響すること、あるいは当社の保険事業に直接関係しない数少ない取引に関連するものであることから、当社保険事業の基盤や傾向を必ずしも正確に反映していないため、当社では、保険事業の財務業績を評価するにあたって事業利益を用いています。

さらに、アフラックの事業全体に占める日本社の割合が非常に大きいため、日本の機能通貨である円から米ドルへの換算が事業利益に与える影響を理解することも同様に重要であると考えています。当社は、日本社の損益計算書の作成にあたっては、当該期間の平均円/ドル為替レートを、また貸借対照表の作成にあたっては、期末の円/ドル為替レートを、それぞれ使用していま

すが、日本社のドル建て投資プログラムを含む限られた取引を除いて、実際に円貨をドル貨に換金することはありません。したがって、当社は、外貨の換算は財務諸表作成の目的に利用するものであって、当社や株主の皆様に対して実際に経済的な意味を持つものではないと考えています。また、為替変動によっては当社事業の成長率が歪められてしまうため、当社は、財務諸表を使って当社事業を評価する場合、為替変動の影響を除外すべきであると考えています。本リリースの最後に為替変動の影響を含めた場合とそれを除外した場合の主な業績数値の比較表を掲載していますので、ご参照ください。

当四半期の事業利益は、前年同期の 8 億 1,400 万ドルから、7 億 9,000 万ドルとなりました。希薄化後 1 株当たり事業利益は前年同期の 1.74 ドルから 2.9% 減少し、1.69 ドルとなりました。為替レートが円安ドル高に推移したことで、当四半期の希薄化後 1 株当たり事業利益は 0.15 ドル減少しました。円安の影響を除いた 1 株当たり事業利益は 5.7% の増加となりました。

運用資産及び現金・預金合計は、2012 年 12 月 31 日現在が 1,182 億ドルであったのに対して、2013 年 3 月 31 日現在では 1,074 億ドルとなりました。運用資産及び現金・預金合計は、円安及び 2012 年第 3 四半期に開始した 6 ヶ月間の有価証券貸付プログラムの終了によるマイナスの影響を受けました。

当四半期、当社は約 1 億 5,000 万ドル相当(およそ 3 百万株)の自己株式を取得しました。2013 年 3 月 31 日現在、当社の自己株式取得承認枠は、1,940 万株となっています。

当四半期、当社は連結の投資ポートフォリオにおける私募証券の評価手法に変更を加えました。この新しい評価手法の採用と、市況の変化によって、2013 年 3 月 31 日現在の株主持分は 2012 年 12 月 31 日現在に比べ 5 億 8,200 万ドル減少しました。株主持分は、2012 年 12 月 31 日現在が 160 億ドル(1 株当たり 34.16 ドル)であったのに対し、2013 年 3 月 31 日現在では 155 億ドル(1 株当たり 33.34 ドル)でした。株主持分に含まれている保有有価証券及びデリバティブに係る未実現利益(ネット)は、2012 年 12 月 31 日現在が 26 億ドルであったのに対し、2013 年 3 月 31 日現在では 20 億ドルでした。当四半期における平均株主持分に対する利益率は、年換算で 22.6% でした。事業ベース(当期純利益に含まれる資産運用実現損益(ネット)合計、株主持分に含まれる運用資産及びデリバティブの未実現損益を除く)で見ると、当四半期における平均株主持分に対する利益率は、年換算で 23.4% でした。

日本社

円ベースで見ると、当四半期の日本社の収益合計は前年同期に比べて 9.7% 増加しました。円ベースの保険料収入は、9.8% 増加しました。投資収益(ネット)は 7.3% 増加しました。当四半期の日本社の投資収益の約 40% がドル建てであったことから、日本社の円ベースでの投資収益の伸びは、円安ドル高の影響によって押し上げられました。当四半期の税引前事業利益率は、前年同期の 21.3% から 21.5% とわずかに改善しました。円ベースの税引前事業利益は 10.7% 増加しました。

円/ドル為替レートが前年同期に対して円安ドル高であったため、日本社の当四半期のドルベースの実績は、押し下げられました。期中平均円/ドル為替レートは、前年同期が 1 ドル=79.59 円であったのに対し、当四半期は 14.0% 円安ドル高の 1 ドル=92.59 円でした。

期中平均の円安ドル高を反映して、日本社の当四半期のドルベースの保険料収入は 5.9%減少し、39 億ドルとなりました。当四半期の投資収益(ネット)は 7.6%減少し、6 億 7,400 万ドルとなりました。収益合計は 5.9%減少し、46 億ドルに、税引前事業利益は 4.8%減少し、9 億 8,900 万ドルとなりました。

当四半期の新契約年換算保険料は 2.6%増の 538 億円(5 億 7,800 万ドル)となりました。がん保険と医療保険を合わせた第三分野商品の販売は、7.1%減少しました。当四半期の金融機関窓販は、13.2%減少しました。「WAYS」の販売は対前年同期比 1.9%減となりましたが、これを含む普通生命保険の販売は、当四半期 7.3%増加しました。この実績は予想を上回りましたが、これは主として、生活者が 2013 年 4 月 2 日に実施された第一分野商品の保険料率の引き上げ前に保険の購入を希望したことによります。

米国社

当四半期の米国社の収益合計は 3.9%増の 14 億ドルとなりました。保険料収入は 4.0%増加し、13 億ドルに、投資収益(ネット)は 3.4%増加して 1 億 5,700 万ドルとなりました。税引前事業利益率は、前年同期の 19.6%からわずかに低下し、19.5%となりました。税引前事業利益は 3.6%増の 2 億 8,100 万ドルとなりました。

当四半期の米国社の新契約年換算保険料は、5.2%減少し、3 億 3,200 万ドルとなりました。また、当四半期の継続率は 74.7%で前年同期と変わりませんでした。

現金配当

取締役会は、2013 年度第 2 四半期支払いの現金配当を宣言しました。2013 年度第 2 四半期の現金配当は 1 株当たり 0.35ドルで、2013 年 5 月 22 日の市場終了時点の登録株主に対し、2013 年 6 月 3 日に支払われます。

今後の見通し

当四半期の業績について、当社会長兼最高経営責任者であるダニエル・P・エイモスは次のように述べています。「大幅な円安の影響で、基本的な好業績が隠されている部分はありますが、私たちは、当社の 2013 年度第 1 四半期の全体的な業績に満足しています。日本社は当四半期、予想を上回る堅調な財務業績を挙げました。日本社の全体的な販売は、予定されていた保険料率引き上げに先立った商品の購入により増加しましたが、一方、第三分野商品の販売は予想通り減少しました。しかし、当社は、当社の第三分野商品に対する消費者の反響は 2013 年後半に高まるものと確信しています。したがって、引き続き日本社の第三分野商品の販売は対前年比横ばいから 5%増となると予想しています」

「当四半期の米国社の販売は減少しましたが、販売の比重は下半期に向かって大きくなるものと確信しています。したがって、年間の販売が、対前年比横ばいから 5%増という当社の目標に変更はありません。米国社の事業基盤は強力で、米国社は、あらゆる規模の企業の従業員に接点

を拡大することに注力しています。当社は引き続き、当社の強力なブランドと、変化を続ける医療環境に対応した商品群を活用する機会を追求して行きます」

「特に日本において顕著な低い投資利回りは、引き続き当社の極めて大きな課題となっています。このような環境の下、当社は引き続き、キャッシュ・フローの大きな部分を米国の社債に投資しています。この戦略によって、投資利回りの向上を目的としつつ、より大きな流動性がもたらされ、当社のポートフォリオの柔軟性が高まり、大きなキャッシュ・フローを日本国債以外の多様な対象に投資する機会を増やすことができます。10年国債の利回りが過去最低を記録したことを踏まえ、当社は資産配分について柔軟でありたいと考えています。また、日本の金利や円／ドル為替レートなど金融市場に影響を与える大きな変化に鑑み、当社の投資部門は、当社の日本国債への資産配分に係る選択肢を評価するために、日本の金融政策及び財政政策を慎重にモニタリングして行きます」

「当社の強固な規制上の自己資本比率は、ご契約者と社債保有者の皆様のために財務力を維持するという当社のコミットメントの表れです。過去数年にわたってお伝えしているとおり、高いRBC比率及びソルベンシー・マージン比率を維持することは当社にとっての優先事項です。当四半期の法定会計基準に基づく財務諸表はまだ完成していませんが、2013年3月31日現在の当社のRBC比率は、2012年末の630%を上回るものと予想しています。また、日本社のソルベンシー・マージン比率も、669%であった2012年末の水準を超えると確信しています」

「前四半期、当社が本年度、4億ドルから6億ドル相当の自己株式を取得する意向であることをお伝えしておりますが、当四半期は、およそ1億5,000万ドル相当の自己株式を取得しました。当社の高い自己資本比率及び親会社が持つ流動性から、当社はこの範囲の金額での自己株式取得についてより確信を強めています」

「当社事業に内在する強さを反映し、本年度もアフラックにとって良い年になると私たちは期待しています。また、私はあらためて、2013年の当社の目標が変わっていないことを申しあげたいと思います。為替変動の影響を除いた希薄化後1株当たり事業利益の成長率を対前年比4%から7%、つまり為替変動の影響を除いた希薄化後1株当たり事業利益をおよそ6.86ドルから7.06ドルの間にするということです。当社が利益目標を達成し、2013年通年の平均円／ドル為替レートが1ドル=95円から100円の間で推移したと仮定した場合、年間の希薄化後1株当たり事業利益は5.99ドルから6.37ドルの間になると予想しています。また、同じ仮定を用いた場合、2013年度第2四半期の希薄化後1株当たり事業利益は、1.41ドルから1.56ドルの間になると予想しています」

アフラックについて

当社は、ご契約者が病気または怪我をした時に現金を迅速にお支払いします。およそ60年にわたって、当社の商品は、ご契約者が経済的な負担を抱えずに回復に専念する機会を提供してきました。当社は米国においては更新保障付保険販売におけるNo.1の会社で、日本においては個人保険の保有契約件数で第1位の生命保険会社です。世界で5,000万人以上の方が当社の個人及び団体保険に加入しています。『Ethisphere』誌は7年連続で当社を「世界で最も倫理観の高い企業」に選出しています。また、2013年、『フォーチュン』誌は当社を15年連続で「全米で最も働きがいのある企業100社」に選出するとともに、12回目となる「世界で最も賞賛すべき企業」

にも選出、当社を生命保険及び医療保険分野で第 1 位にランクしました。Aflac Incorporated はフォーチュン 500 社に入っており、ティッカーシンボル AFL としてニューヨーク証券取引所に上場しています。当社に関するさらに詳しい情報は aflac.com 及び espanol.aflac.com をご覧ください。

当四半期の業績数値の補足資料(FAB Supplement)、金融セクターに対する全運用資産の一覧表及び永久証券及びユーロ圏周辺国の有価証券におけるソブリン債及び金融機関債への投資の一覧表は、aflac.com「Investors」ページから入手可能です。

当社は当四半期業績報告の電話会議の様様を 2013 年 4 月 25 日木曜日午前 9 時 00 分(米国東部夏時間)に aflac.com 「Investors」ページ上で公開します。

Aflac Incorporated およびその子会社連結損益計算書(抜粋)

(単位:百万ドル。ただし、株式数および1株当たりの数字を除く—無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	2013年	2012年	増減率
収益合計	6,208	6,240	-0.5%
保険金給付金	3,521	3,646	-3.4%
新契約費及び事業費合計	1,326	1,392	-4.8%
税引前当期純利益	1,361	1,202	13.3%
法人税等	469	417	
当期純利益	892	785	13.7%
基本1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.91	1.68	13.7%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.90	1.68	13.1%
1株当たり当期純利益計算に用いた普通株式数(単位:千株)			
基本	466,462	465,887	0.1%
希薄化後	469,124	468,533	0.1%
1株当たり現金配当(単位:ドル)	0.35	0.33	6.1%

Aflac Incorporated およびその子会社連結貸借対照表(抜粋)

(単位:百万ドル。ただし、株式数を除く—無監査)

3月31日現在:

	2013年	2012年	増減率
資産:			
運用資産および現金・預金	107,400	103,104	4.2%
繰延新契約費	9,210	9,542	-3.5%
その他の資産	3,928	2,906	35.2%
資産合計	120,538	115,552	4.3%
負債および株主持分:			
保険契約準備金	92,951	92,697	0.3%
社債等	4,283	3,964	8.1%
その他の負債	7,769	5,248	48.0%
株主持分	15,535	13,643	13.9%
負債および株主持分合計	120,538	115,552	4.3%
期末発行済普通株式数(単位:千株)	466,025	467,463	-0.3%

事業利益と当期純利益の調整

(単位:百万ドル。ただし、1株当たりの数字を除く—無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	2013年	2012年	増減率
事業利益	790	814	-2.9%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	42	-81	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-3	-	
デリバティブおよびヘッジ活動の影響	63	52	
当期純利益	892	785	13.7%
希薄化後1株当たり事業利益(単位:ドル)	1.69	1.74	-2.9%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	0.08	-0.17	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-0.01	-	
デリバティブおよびヘッジ活動の影響	0.14	0.11	
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.90	1.68	13.1%

為替変動の業績への影響¹
(主要項目の前年同期比増減率—無監査)

2013年3月31日に終了した3ヶ月間:

	為替変動の 影響を含む	為替変動の 影響を除く²
保険料収入	-3.6%	8.1%
投資収益(ネット)	-5.6%	1.7%
保険金給付金および事業費合計	-3.8%	7.6%
事業利益	-2.9%	5.8%
希薄化後1株当たり事業利益	-2.9%	5.7%

¹数値は本リリースにおいて定義した事業利益ベースで表示している。

²為替変動の影響を除外した数値は、前年同期と同様の円/ドル為替レートを用いて算出した。

2013年1株当たり事業利益予想

<u>円/ドル平均為替レート</u>	<u>1株当たり年間事業利益</u>	<u>対2012年増加率</u>	<u>為替の影響</u>
79.81*	\$6.86 - \$7.06	3.9% - 7.0%	\$ -
85	\$6.60 - \$6.80	0.0% - 3.0%	\$ -0.26
90	\$6.37 - \$6.57	-3.5% - -0.5%	\$ -0.49
95	\$6.17 - \$6.37	-6.5% - -3.5%	\$ -0.69
100	\$5.99 - \$6.19	-9.2% - -6.2%	\$ -0.87

*実際の2012年の年間加重平均為替レート